

# 利用上の注意

## 1 調査の概要

### 〔1〕 調査の目的

工業統計調査は、製造業の実態を明らかにし、工業に関する施策の基礎資料を得ることを目的とします。

### 〔2〕 調査の根拠

統計法（2007年（平成19年）法律第53号）に基づく基幹統計であり、工業統計調査規則（1951年（昭和26年）通商産業省令第81号）によって実施されます。

### 〔3〕 調査期日及び対象期間

各年6月1日現在で実施した調査です。

事業所数、従業者数については各年6月1日現在、製造品出荷額等の経理事項については各年の前年1月～12月の数値です。

なお、2016年（平成28年）は経済センサスー活動調査の数値であり、調査事項を簡素化した個人経営調査票を設けたため、個人経営調査票を配布した事業所については、「事業所数」、「従業者数」の項目は集計に含まれるものの、「製造品出荷額等」の項目については集計事項に含まれていません。

### 〔4〕 調査の範囲及び対象

日本標準産業分類（平成25年総務省告示第405号）に掲げる「大分類E－製造業」に属する従業者4人以上の事業所（調査困難地域にある事業所を除く）を対象としています。

### 〔5〕 集計

金額の単位は他市等との比較もあり、百万円としました。

また、表中の数値及び割合は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

## 2 符号の用法

[-] …… 該当数値なし

[X] …… 数値が秘匿されているもの

[△] …… マイナスの数値

[秘匿数値の表し方]

「X」は、1又は2の事業所に関する数値であるため、これをそのまま掲げると、個々の申告者の秘密が漏れるおそれがあるので秘匿した個所です。また、3以上の事業所に関する数値でも1又は2の事業所の数値が前後の関係から判明する個所は、「X」で表示しています。

## 3 用語の説明

### 〔1〕 事業所

事業所とは、一般的に工場，製作所，製造所あるいは加工所などと呼ばれているような、一区画を占めて主として製造又は加工を行っているものをいいます。

### 〔2〕 従業者数

従業者とは、次の①から⑧までに該当するものをいいます。

従業者数は、次の算式により算出した「この事業所に従事している男女計」をいいます。

従業者数 = 「個人業主及び無給家族従業者」 + 「有給役員」 + 「常用雇用者」（「正社員・正職員としている人」 + 「それ以外の人（パート・アルバイトなど）」） - 「送出者」 + 「出向・派遣受入者」

① 「個人業主及び無給家族従業者」とは、以下のア、イに該当するものをいいます。

ア. 「個人業主」とは、個人経営の事業所で、その事業所を経営している人をいいます。

イ. 「無給家族従業者」とは、個人業主の家族で、賃金・給与を受けずに、常時従事している人をいいます。ただし、手伝い程度のものは含みません。

② 「有給役員」とは、事業所の取締役，理事などで役員報酬を得ている人をいいます。他の事業所の役員を兼ねている場合であっても、調査対象事業所が役員報酬を支給している場合は、調査対象事業所の有給役員に該当します。

- ③ 「常用雇用者」とは、次のいずれかに該当するものをいい、「正社員・正職員としている人」及び「それ以外の人（パート・アルバイトなど）」に分けられます。
- a) 期間を定めずに、又は1か月以上の期間を定めて雇用している人。別経営の事業所へ出向・派遣している人や、臨時職員などと呼ばれている人でも上記に当てはまる場合は、「常用雇用者」に含まれます。
  - b) 個人業主の家族で、実際に雇用者並みの賃金・給与の支払いを受けている人。
  - c) 個人が共同で事業を行っている場合、そのうち1人を個人業主とするが、個人業主としなかった他の人。
- ④ 「常用雇用者」のうち「正社員・正職員としている人」とは、「正社員」、「正職員」として処遇している人をいいます。一般的に、雇用契約期間に定めがなく（定年制を含む）、事業所で定められている1週間の所定労働時間で働いている人が該当します。
- ⑤ 「常用雇用者」のうち「それ以外の人（パート・アルバイトなど）」とは、「契約社員」、「嘱託」、「パートタイマー」、「アルバイト」など「正社員・正職員としている人」以外の人をいいます。
- ⑥ 「臨時雇用者」とは、常用雇用者に該当しない人（1か月未満の期間を定めて雇用している人や日々雇用している人など）をいいます。
- ⑦ 「送出者」とは、個人業主及び無給家族従業者、有給役員、常用雇用者、臨時雇用者に該当する人のうち、労働者派遣法でいう派遣労働者のほかに、在籍出向など調査対象事業所に籍を置いたまま、他企業など別経営の事業所で働いている人をいいます。
- ⑧ 「出向・派遣受入者」とは、別経営の事業所に籍を置いたまま調査対象事業所で働いている人及び人材派遣会社からの派遣従業者をいいます。

### 〔3〕 製造品出荷額等

製造品出荷額等は1年間における「製造品出荷額」、「加工賃収入額」、「くず廃物の出荷額」及び「その他収入額」の合計であり、消費税及び酒税、たばこ税、揮発油税及び地方揮発油税を含んだ額をいいます。

- ① 「製造品の出荷」とは、その事業所の所有に属する原材料によって製造されたもの（原材料を他企業の国内事業所に支給して製造させたものを含む）を、年内にその事業所から出荷した場合をいいます。また、次のものも製造品出荷に含まれます。

ア 同一企業に属する他の事業所へ引き渡したもの

イ 自家使用されたもの（その事業所において最終製品として使用されたもの）  
ウ 委託販売に出したもの（販売済みでないものを含み，年内に返品されたものを除く）

②「加工賃収入額」とは，年内に他企業の所有に属する主要原材料によって製造し，あるいは他企業の所有に属する製品又は半製品に加工，処理を加えた場合，これに対して受け取った又は受け取るべき加工賃をいいます。

③「その他収入額」とは，上記①，②及び「くず廃物の出荷額」以外（例えば，転売収入（仕入れて又は受け入れてそのまま販売したもの），修理料収入額，冷蔵保管料及び自家発電の余剰電力の販売収入額等）の収入額をいいます。

# 2019年(令和元年)工業統計調査 集計結果

## (福山市の概要)

### ● 福山市の工業の推移

過去4年間の推移です。事業所数においては減少しており、従業者数においては増加しています。

### 福山市工業の推移

≪指数は2017年(平成29年)=100≫ (単位:事業所, %, 人, 百万円)

調査実施年	事業所数			従業者数			製造品出荷額等		
	実数	対前年増加率	指数	実数	対前年増加率	指数	実数	対前年増加率	指数
2016年(平成28年)	1,371	11.7	113.3	38,240	△0.4	97.0	2,144,814	4.5	110.7
2017年(平成29年)	1,210	△11.7	100.0	39,411	3.1	100.0	1,937,540	△9.7	100.0
2018年(平成30年)	1,181	△2.4	97.6	40,126	1.8	101.8	1,725,857	△10.9	89.1
2019年(令和元年)	1,140	△3.5	94.2	40,355	0.6	102.4	1,793,022	3.9	92.5

事業所数及び従業者数は、実施年の6月1日現在、製造品出荷額等は、前年1月～12月の実績です。

2016年(平成28年)は、経済センサス-活動調査の数値です。(利用上の注意参照)

### ● 県内14市の工業

県内で比較しますと、福山市の事業所数は1番多く広島県全体の24.3%を占めており、従業者数・製造品出荷額等については2番目の多さです。

### 県内14市の工業

(単位:事業所, %, 人, 百万円)

市名	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
広島県	4,688	100.0	220,240	100.0	10,039,720	100.0
広島市	1,126	24.0	56,341	25.6	3,166,741	31.5
呉市	398	8.5	20,674	9.4	1,096,261	10.9
竹原市	43	0.9	1,695	0.8	80,847	0.8
三原市	177	3.8	8,649	3.9	390,740	3.9
尾道市	350	7.5	15,082	6.8	575,247	5.7
福山市	1,140	24.3	40,355	18.3	1,793,022	17.9
府中市	214	4.6	7,090	3.2	198,908	2.0
三次市	85	1.8	4,174	1.9	112,975	1.1
庄原市	75	1.6	2,287	1.0	52,198	0.5
大竹市	39	0.8	4,037	1.8	287,025	2.9
東広島市	417	8.9	22,619	10.3	860,774	8.6
廿日市市	161	3.4	7,460	3.4	207,279	2.1
安芸高田市	91	1.9	4,207	1.9	128,966	1.3
江田島市	37	0.8	904	0.4	22,127	0.2

### ● 事業所数の推移

福山市の事業所数は前年より41事業所(3.5%)減少しています。産業中分類別に見ますと、2017年(平成29年)・2018年(平成30年)に続き、繊維工業が最も多く、全体の15.7%を占めています。

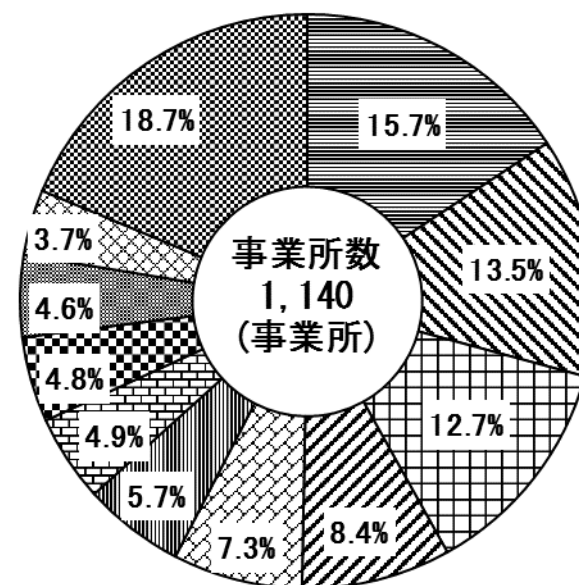
### 事業所数の推移

(単位:事業所, %)

産業中分類	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年(令和元年)		
			実数	構成比	対前年増加率
総数	1,210	1,181	1,140	100.0	△3.5
09 食料品製造業	95	99	96	8.4	△3.0
10 飲料・たばこ・飼料製造業	11	9	9	0.8	0.0
11 繊維工業	197	186	179	15.7	△3.8
12 木材・木製品製造業(家具を除く)	35	36	35	3.1	△2.8
13 家具・装備品製造業	47	43	42	3.7	△2.3
14 パルプ・紙・紙加工品製造業	16	18	16	1.4	△11.1
15 印刷・同関連業	43	42	42	3.7	0.0
16 化学工業	12	12	12	1.1	0.0
17 石油製品・石炭製品製造業	2	2	2	0.2	0.0
18 プラスチック製品製造業	59	60	56	4.9	△6.7
19 ゴム製品製造業	13	12	12	1.1	0.0
21 窯業・土石製品製造業	33	31	29	2.5	△6.5
22 鉄鋼業	60	64	65	5.7	1.6
23 非鉄金属製造業	10	9	9	0.8	0.0
24 金属製品製造業	157	150	145	12.7	△3.3
25 はん用機械器具製造業	59	58	53	4.6	△8.6
26 生産用機械器具製造業	166	161	154	13.5	△4.3
27 業務用機械器具製造業	8	7	8	0.7	14.3
28 電子部品・デバイス・電子回路製造業	10	11	10	0.9	△9.1
29 電気機械器具製造業	59	55	55	4.8	0.0
30 情報通信機械器具製造業	2	3	1	0.1	△66.7
31 輸送用機械器具製造業	87	85	83	7.3	△2.4
32 その他の製造業	29	28	27	2.4	△3.6

調査実施年の6月1日現在における数値です。

### 事業所の構成比



- 繊維工業
- 生産用機械器具製造業
- 金属製品製造業
- 食料品製造業
- 輸送用機械器具製造業
- 鉄鋼業
- プラスチック製品製造業
- 電気機械器具製造業
- はん用機械器具製造業
- 家具・装備品製造業
- その他

● 従業者数の推移

福山市の従業者数は前年より 229 人 (0.6%) 増加しています。産業中分類別に見ますと、2017 年 (平成 29 年)・2018 年 (平成 30 年) に続き、鉄鋼業が最も多く、全体の 15.4% を占めています。

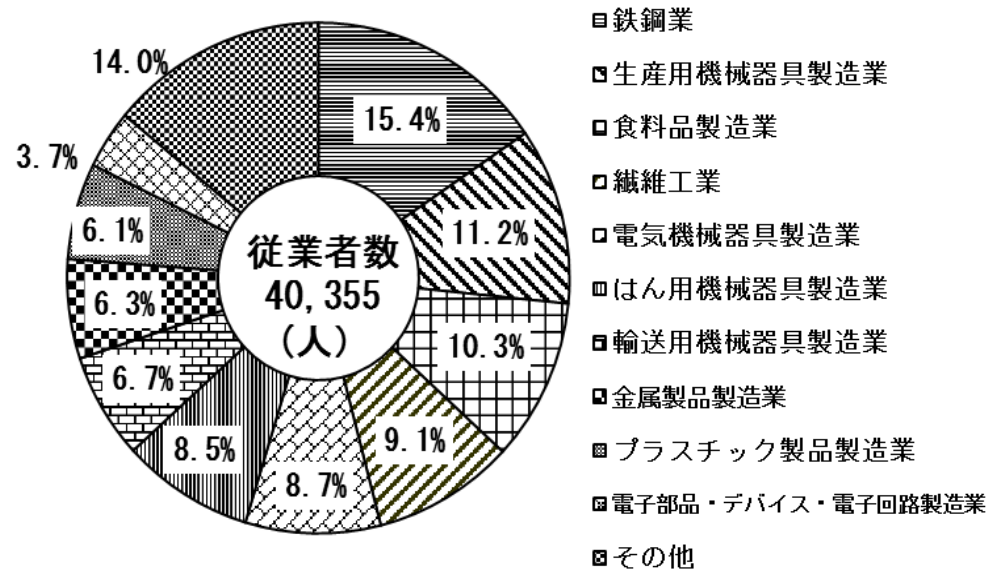
従業者数の推移

(単位:人,%)

産業中分類	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年(令和元年)		
			実数	構成比	対前年増加率
総数	39,411	40,126	40,355	100.0	0.6
09 食料品製造業	3,604	4,197	4,146	10.3	△1.2
10 飲料・たばこ・飼料製造業	197	173	119	0.3	△31.2
11 繊維工業	3,806	3,637	3,676	9.1	1.1
12 木材・木製品製造業(家具を除く)	867	882	766	1.9	△13.2
13 家具・装備品製造業	701	664	642	1.6	△3.3
14 パルプ・紙・紙加工品製造業	252	396	373	0.9	△5.8
15 印刷・同関連業	1,012	1,027	974	2.4	△5.2
16 化学工業	608	612	612	1.5	0.0
17 石油製品・石炭製品製造業	36	37	46	0.1	24.3
18 プラスチック製品製造業	2,394	2,406	2,458	6.1	2.2
19 ゴム製品製造業	560	559	549	1.4	△1.8
21 窯業・土石製品製造業	820	828	797	2.0	△3.7
22 鉄鋼業	5,555	5,493	6,230	15.4	13.4
23 非鉄金属製造業	108	101	129	0.3	27.7
24 金属製品製造業	2,551	2,514	2,531	6.3	0.7
25 はん用機械器具製造業	3,347	3,506	3,441	8.5	△1.9
26 生産用機械器具製造業	4,342	4,344	4,537	11.2	4.4
27 業務用機械器具製造業	79	79	85	0.2	7.6
28 電子部品・デバイス・電子回路製造業	1,573	1,779	1,502	3.7	△15.6
29 電気機械器具製造業	3,663	3,478	3,501	8.7	0.7
30 情報通信機械器具製造業	144	114	77	0.2	△32.5
31 輸送用機械器具製造業	2,703	2,850	2,710	6.7	△4.9
32 その他の製造業	489	450	454	1.1	0.9

調査実施年の6月1日現在における数値です。

従業者の構成比



● 製造品出荷額等の推移

福山市の製造品出荷額等は前年より 671 億 6 千 5 百万円 (3.9%) 増加しています。産業中分類別に見ますと、2017 年 (平成 29 年)・2018 年 (平成 30 年) に続き、鉄鋼業が最も多く、全体の 43.2% を占めています。

製造品出荷額等の推移

(単位:百万円,%)

産業中分類	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年(令和元年)		
			実数	構成比	対前年増加率
総数	1,937,540	1,725,857	1,793,022	100.0	3.9
09 食料品製造業	154,457	167,884	159,554	8.9	△5.0
10 飲料・たばこ・飼料製造業	9,244	8,722	7,803	0.4	△10.5
11 繊維工業	60,778	57,413	58,831	3.3	2.5
12 木材・木製品製造業(家具を除く)	26,695	27,856	15,020	0.8	△46.1
13 家具・装備品製造業	9,134	8,864	8,478	0.5	△4.4
14 パルプ・紙・紙加工品製造業	5,359	8,193	9,044	0.5	10.4
15 印刷・同関連業	16,375	16,739	15,415	0.9	△7.9
16 化学工業	40,217	42,133	46,743	2.6	10.9
17 石油製品・石炭製品製造業	X	X	X	X	X
18 プラスチック製品製造業	68,880	75,627	78,107	4.4	3.3
19 ゴム製品製造業	17,909	17,617	19,081	1.1	8.3
21 窯業・土石製品製造業	34,585	34,679	37,640	2.1	8.5
22 鉄鋼業	648,181	736,276	775,130	43.2	5.3
23 非鉄金属製造業	2,197	2,135	2,579	0.1	20.8
24 金属製品製造業	42,817	44,698	46,229	2.6	3.4
25 はん用機械器具製造業	121,533	127,115	136,392	7.6	7.3
26 生産用機械器具製造業	102,614	101,711	115,841	6.5	13.9
27 業務用機械器具製造業	631	658	619	0.0	△5.9
28 電子部品・デバイス・電子回路製造業	389,399	53,412	59,945	3.3	12.2
29 電気機械器具製造業	112,641	114,137	104,823	5.8	△8.2
30 情報通信機械器具製造業	X	X	X	X	X
31 輸送用機械器具製造業	58,971	66,857	83,448	4.7	24.8
32 その他の製造業	10,273	10,079	9,279	0.5	△7.9

調査実施年の前年の1月～12月の実績です。

(注)Xは秘匿をしています。

製造品出荷額等の構成比

